

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行  
第2回フォーラム研究会  
議事録

日時：平成26年5月7日（水） 10：00～12：30

場所：パブリック・アウトリーチ本部事務所

出席者：13名（順不同・敬称略）

木村（PONPO）、足立（元気ネット）、植木（元気ネット）、大石（PONPO）、神崎（PONPO）、  
鬼沢（元気ネット）、久保（PONPO）、渋谷（元気ネット）、竹中（PONPO）、  
中岡（元気ネット）、丸山（PONPO）、諸葛（PONPO）、第1期フォーラム参加者

配布資料

F2-0. 議事次第

F2-1. 第1回フォーラム研究会議事録案

F2-2. 第1回フォーラム開催のお知らせ

F2-3. コミュニケーション・マニュアル

F2-4. フォーラム直前のアンケート調査へのご回答のお願い

F2-5. フォーラム直前のアンケート（首都圏住民参加者用）

F2-6. フォーラム直前のアンケート（原子力学会員参加者用）

F2-7. フォーラムへのご協力のお願い

F2-8. フォーラムの目的・コミュニケーションのステップ

F2-9. 第1回フォーラムスケジュール表

F2-10. ブレーンストーミングのやり方

F2-11. グループワークの進め方

F2-12. 第1回フォーラムに関するアンケート

議題

0. 前回議事録確認

1. フォーラムの準備等

2. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

## 0. 前回議事録確認（配布資料 F2-1）

木村氏より、資料 F2-1 に基づき、前回の議論の内容が確認された。

## 1. フォーラムの準備等（配布資料 F2-2～F2-12）

木村氏より、事前に郵送する資料（F2-2～F2-7）、及び、フォーラム当日に用いる資料（F2-7、F2-8、F2-10、F2-11、F2-12）の案が提示された。特に重要な決定事項を以下に示す。

### 事前郵送資料

※第3回フォーラム研究会で内容を確定し、郵送する。

- ・ 資料 F2-2～F2-7に加え、第1回フォーラムのプログラムの概略も郵送する。
- ・ コミュニケーション・マニュアルは、木村氏、竹中氏を中心に、必要に応じて改訂する。
- ・ コミュニケーション・マニュアルは、第1期フォーラムでは持ち運びの容易さを重視して（小さいバッグにも入るように）小さめの紙に印刷したが、今回は読みやすさを重視してA4サイズに印刷する。
- ・ フォーラム直前のアンケートは、第1期同様、記名で行う。調査票の原本は、土田氏以外は閲覧しない。回収用の封筒にも氏名の記入欄を設け、調査票と回答者が確実に対応するように配慮する。

### 当日資料

- ・ 「ブレインストーミングのやり方」「グループワークの進め方」は、昨年度の資料を基に、難解な表現を平易な表現に変更する（例：意見の構造化→意見の見える化）。A3サイズに印刷してホワイトボードに掲示することも視野に入れ、形式を整える。
- ・ 「コミュニケーションのステップ」は、番号はつけず、箇条書きにする。
- ・ 「模造紙のまとめ方の例」を用意し、ホワイトボードに掲示する。模擬フォーラムの模造紙を例とし、どのように見える化をすればいいのかを示す。なお、模擬フォーラムの模造紙によって参加者の意見が誘導されることを避けるため、模擬フォーラムのテーマは原子力とは関係のないものにした。

続いて、木村氏から、資料 F2-9 に基づき、第 1 回フォーラムのプログラム案が説明された。その後、活発な議論がなされた。このプログラム案を基に模擬フォーラムを実施し、さらなる検討を行う予定である。

**【受付】（12：30 開始）**

- ・ くじの方法を改善する。（透けて見えないようにする）
- ・ 懇親会の出欠を確認し、出席者から参加費を徴収する。

**【イントロダクション】（13：00～14：15）**

- ・ 参加者の同意を得た後、録音を開始する。
- ・ 木村氏が、フォーラムの趣旨・目的をパワーポイントで説明する（主催団体の紹介、運営者の紹介を含む）。
- ・ 「フォーラム参加に関する諸条件」については、神崎氏が読み上げ、その後参加者の了承を得るプロセスを取る（ここまでで 40 分）。
- ・ その後、参加者に自己紹介していただく（20 分）。
- ・ 「グループワークの進め方」は、「ブレインストーミングのやり方」「グループワーク 1 の進め方」「フォーラムで気をつけること」の順に説明する（木村氏：15 分）。

**【グループワーク】（1 回目 14：15～14：45、2 回目 14：55～15：35、  
全体共有 15：35～16：05）**

※模擬フォーラムにおいて特に検討される項目である。

- ・ グループワークでは、参加者がそれぞれ「宿主」（市民 1 名、専門家 1 名）、「ファシリテーター」（1 回目、2 回目で交代する）、「発表者」（市民 1 名、専門家 1 名）の役割を担う。
  - 「宿主」は、グループワーク 1、グループワーク 2 で、同じグループに留まる。それ以外の 4 名は、グループワーク 1 の後、別のグループへ移動する。「宿主」は、移動してきた参加者に、グループワーク 1 で話し合われた内容を説明する。また、全体共有時に、グループワーク 1 で話し合われた内容を発表する。
  - 「ファシリテーター」は、グループワークの進め方に則りグループワークを進行する。ファシリテーターも意見を述べる。グループワーク 1、2 で交代する。
  - 「発表者」は、全体共有時に、グループワーク 2 で議論された内容を発表する。
- ・ グループワーク 1 では、テーマについて話し合う（30 分）。
- ・ グループワーク 1 の後には全体共有は行わない。
- ・ グループワーク 1 の終了後、休憩（5 分）を挟んで、木村氏がこの後の進め方について説明する（5 分）。

- ・ グループワーク 2 では、「宿主」によるグループワーク 1 で話し合われた内容の説明の後、同意できる付箋に対しシールを貼る。(付箋同様、シールも色分けする)
- ・ その後、参加者が各自「なるほど」と思う付箋を 1 枚選び、なぜ「なるほど」と思ったのかを考え、付箋に記入し、順番に発表する。その後、自由に議論する。
  - ▶ 「なるほど」と思う方向性は、「今までそのような発想はなかったが、共感できる」でも、「やはり市民は（専門家）そういう考え方なのか」でも構わない。（「お互いが異なることの認識」「共通点の認識」につながる）
- ・ 全体共有では、グループワーク 1 で話し合われたことを発表し（宿主：3 分）、グループワーク 2 で話し合われたことを発表し（発表者：3 分）、質疑応答（4 分）を行う。

#### 【次回のテーマ】（16：05～16：35）

- ・ 次回のテーマの決定方法について、木村氏が説明をする（5 分）。
  - ▶ テーマは原子力に限らなくても構わない旨も伝える。
- ・ グループワーク 2 のグループで、次回のテーマ案を出し合い、最終的にグループで 2 つのテーマ案に絞る（15 分）。
- ・ その 2 つの案を、提案者が全体に発表する。3 グループで 6 つのテーマ案が提示される。6 つのテーマ案の中から、次回話し合いたいテーマ 1 つを、参加者に投票してもらう（10 分）。

#### 【アンケート記入・振り返り】（16：35～17：00）

- ・ 第 1 期と同様の手法をとる。
- ・ 次回のテーマの投票は、アンケート記入中に開票する。その結果は、「特に言っておきたいことの発表」の後に発表する。

#### 【終了後】

- ・ 再度、懇親会への参加を呼びかける。
- ・ 懇親会終了後、第 1 回フォーラムの反省会を行う。反省会の記録を取り、次回のフォーラムの設計に活かす。

## 2. その他

- ・ 木村氏より、第 3 回フォーラム研究会の日程（5 月 19 日 13 時～16 時）が説明された。

以上